JA広報

2019 はばたき 1

No.372

謹賀新年

計根別農業協同組合

代表理事組合長　西塚秀夫
副組合長理事　北村篤
理事　石毛剛
理事　須崎智
理事　深瀬信孝
理事　助口明
理事　漆原俊之
代表監事　安斎宏一
監事　本田勉
監事　浮中喜佐夫
理事兼務参事　中瀬満
信用担当理事兼務金融共済部長　松岡幸樹
職員一同

年頭ご挨拶

「年頭にあたって」

代表理事組合長　西塚秀夫

新年明けまして、おめでとうございます。

組合員の皆様にはご家族共々、ご健勝で平成31年の輝かしい新春を迎えられました事に心からお慶び申し上げます。また、昨年中は農協の事業運営に対し、格別なるご指導、ご協力を賜りました事に心から感謝とお礼を申し上げます。

さて、昨年を振り返ってみますと、5月末までの天候状態は大変良い気候のなかで農作業を行うことが出来ました。しかし、6月に入ってから7月までの長雨が影響して、組合員の皆様は牧草収穫作業等に大変なご苦労をされたのかなというように思っております。このことから、昨年度に収穫した粗飼料も量的には確保されましたが、栄養価的にはかなり心配され、次年度の生乳生産に大きな不安を残すこととなりました。

また、当農協における生乳生産状況につきましては、休農・離農による経産牛頭数の減少、さらには乳牛の疾病や胆振東部地震等の影響による廃棄乳もあり、前年対比では100％を下回る結果となりましたが、平成31年には昨年を上回る生産を期待しており、組合員の皆様には更なる努力をお願いしたいと思っております。

次に、国際貿易についてですが、TPP11は10月末にオーストラリアが6ヶ国目ということで国内手続きも終わり、12月30日に発効することとなりました。欧州とのEPAにつきましても今作業が進められており2月頃には発効してくる予定となっております。さらに、アメリカと日本の2国間貿易交渉でございますけれども、アメリカは日本に対してTPP11並びにEPAの合意よりさらに踏み込んだ自由化を求めているのが実態であります。これらのことが実現すると畜産、乳業に関してはかなり大きなダメージを受けることが予想され、今から日本としてどのような処置をするか、酪農家としてどのような対応をするかということを考えていかなければなりません。

指定団体制度につきましては、昨年の4月より仕組みが変わり、酪農家の皆様は自分の選ぶ所に出荷できるという体制となりました。計根別農協におきましては、組合員皆様がホクレンを通じて出荷されており、指定団体の重要性、それから今まで行ってきた販売に対する考え方等にご賛同頂いたと感謝しております。このことは、対メーカーや国に対する交渉力の大きな力にもなるというように信じておりますので、尚一層のご理解とご協力を賜りたいと思います。

このような状況のもと、平成31年度加工原料乳生産者補給金単価は、輸送費などの上昇を踏まえて生乳1kgあたり前年対比8銭増の8円31銭、集送乳調整金につきましても6銭増の2円49銭とし、交付対象数量も340万tを維持したなかで補給金単価と調整金を合わせて10円80銭での決着となりました。

また、9月6日に発生しました胆振東部地震では、ブラックアウトという大きな事案が発生しました。計根別農協管内も全戸が2日間にわたり停電となり、その際に組合員の皆様には大変なご苦労を掛けたかなと思います。農協といたしましても全職員を挙げて、それらの対応に一生懸命取り組んで参りましたけれども、不行き届きの点や気が付かなかったこともあったかと思います。しかしながら、あの状況のなかで職員達は夜も寝ずに頑張ったということもお認め頂きたいと思います。さらに、地域の電気会社や整備工場など全ての方々が組合員皆様の搾乳の為に尽力して頂きました。このことは、地域の中で業者の皆様方を大事にしながら酪農経営が成り立つよう考えていかなければならないということを改めて思い知らされました。組合員の皆様におかれましては、今後とも地域の方が一の時や大変な時にお互いが助け合っていけるために業者との関わりも大事にして頂きたいというように思っております。併せて、このたびの地震被害から学んだことは、非常用電源の確保が急務であるということであります。既に、国からの支援策として計根別農協の第1次要望に対して数千万の補助等は決定しておりますが、これをどのように皆様のところで活かしていけるかということが、これからの課題となります。そこで、新年度の取り組みとして組合員全戸を対象に配電盤の整備に取り組み、電力をスムーズに供給できる設備だけでも早急に整備しなければならないと考えております。これらのことが組合員皆様の経営の一助となるよう精一杯のことを農協としても取り組んで参りますので、組合員皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

31年度に向けては、5月から信用事業等における農協改革が始まってくることになります。農協としても今から信用事業並びに共済事業の利益は落ちてきますが、それに備えて各事業とも独立採算の形のなかで取り組んでいかなければなりません。農協の事業運営上でも色々な課題等もございますが、皆様のご意見を頂きながら将来に繋がっていく事業を展開したいと考えております。

いずれにしましても、昨年の乳価も維持出来ましたし、個体販売等も高値安定ということで数年続いておりますので、酪農経営にとっては大変良い環境のなかで生産が行なえたと思います。さらには、国のクラスター事業や酪楽事業・酪楽GO事業を使いながら、規模拡大を志している組合員さんも多くいるなか、それらの事業を活用して計根別農協の目標である将来10万tを搾るという生産体制の構築に向けて頑張っていきたいと思います。

結びに、本年が皆様とご家族一同がご健勝であり、また、地域・JAにとって豊饒な一年であることをお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせて頂きます。

平成31年の年頭にあたり

北海道農業協同組合中央会　会長　飛田稔章

組合員並びにＪＡ役職員の皆様には、輝かしい平成31年の新年を迎えられたものと心よりお慶び申し上げます。

皆様におかれましては、日々の営農と併せ、地域農業の振興や地域社会の発展に向け、日頃より多大なご尽力をされていることに対して、改めて敬意と感謝を申し上げる次第です。

昨年の北海道農業は、春先は気温も高く、農作物の生育は平年並みで推移しましたが、７月の豪雨や台風21号により、農作物の倒伏や落果、農地・農業用施設の損壊など、全道各地域に甚大な被害が発生しました。

さらに９月６日に発生した北海道胆振東部地震により尊い命が失われるとともに、農畜産物や農業施設等に未曾有の被害が発生し、道内全域が停電となる「ブラックアウト」の発生により、組合員の営農やＪＡグループ北海道・農業関係組織の集出荷、輸送、製造、保管体制に多くの影響が生じてしまいました。

現在、ＪＡグループ北海道を挙げて、１日も早い、復旧・復興に向け、全力でその支援対策に取り組んでいるところであります。

作目別の作況をみますと、米は、作況指数が90の「不良」、小麦は、天候不順の影響により、収量・品質とも平年を下回る結果、てん菜は、収量・糖度とも概ね平年並み、生乳は、胆振東部地震の影響と、今後は飼料作物の品質低下等による生乳生産への影響が懸念されているところです。

国際貿易交渉については、９月27日、日米両国が「日米物品貿易協定」（ＴＡＧ）の交渉開始に合意したことが発表されました。

今後、ＴＡＧ交渉において、米国側から過去の経済連携協定で合意した以上の関税引き下げを求められる懸念があるため、その動向を注視していくとともに、農畜産物を犠牲にしない毅然とした対応を求めてまいります。

さて、昨年11月には、第29回ＪＡ北海道大会を開催しました。大会では、前回大会の決議事項を継承し、「農業所得増大」と「担い手確保・育成」の加速に取り組むとともに、「サポーターづくり」の活動拡大として、地域を共に支える准組合員の皆さんのご意見の把握に、これまで以上に取り組むことを決議しました。

また、協同組合の原点を、あらためて見つめ直し、「新たな協同組合」の姿を継続的に討議することも決議しております。今後、組合員の多様な価値観やニーズに対応できる事業運営の展開を検討してまいります。

そして、この３年間の実践期間のうちに、２０１９年５月には政府が進める「農協改革集中推進期間」の期限、２０２１年３月には「准組合員利用規制の調査期限」を迎えますが、ＪＡグループ北海道としては、改革は自ら行うものとして、『力強い農業』と『豊かな魅力ある農村』の実現に向けて、ＪＡグループ一丸となって、大会決議事項の実践を通じた自己改革を進めてまいりたいと考えております。

結びになりますが、今年の干支は己亥（つちのとい）です。

亥には、「無病息災」や「安定した状態で始動を待つ準備期間」の意味があるとのことであります。

今年はこの亥年にあやかり、災害がなく、そして組合員の苦労が報われる実り多い豊穣の一年となりますよう、併せて、北海道農業並びに組合員、役職員の皆様の一層の発展を心よりご祈念申し上げ、新年にあたってのご挨拶といたします。

組織力・地域力を更に強めて

参事　中瀬　満

皆様にはお健やかに輝かしい新年をお迎えのこととお喜び申し上げますとともに、この新しい一年がご家族とも健康で健やかな年となりますようお祈り申し上げます。

昨年はＪＡけねべつが設立されてから七十年の節目に「五十周年記念誌からの二十年のあしあと」と「組合員（家族・施設）紹介」をコンセプトとし、記憶は忘れる事はありますが、記録は一生残るとの思いで個人情報保護法のあるなか、組合員さんの協力を得て「創立七十周年記念誌あしあと」を無事に発刊することが出来ました。農協記念誌も次代を繋ぐ記念誌として、これで二十年誌・三十年誌・五十年誌・七十年誌の四冊となりました。

また、昨年九月には北海道胆振東部地震によるブラックアウトが発生致しました。通常何気なく使用していた電気が約二日間停電となり電気の大切さを身に染みて感ると同時に災害対策や電力確保への整備をしなければいけない地域であると再認識致しました。その中にあって組合員間での情報交換や発電機を持っている組合員が無い組合員への貸出しなどが行われ、昔ながらの良き習慣としての「向こう三軒両隣の精神」が継続されていた事は、ひとつの共存同栄・相互扶助の精神と言えるのではなかと思います。

また、青年部や女性部の部員数が年々減少しております。組合員戸数の減少や担い手不足が大きな要素ではありますが、次世代を担う青年・女性組織は「組織力・地域力」の基本であり、その活動を継続的に実践するためにも組合員全体で検討する時期ではないかと感じております。

ＪＡ大会のメインテーマでもある力強い農業を推進するためにも組合員個々の結集による「組織力」、そして豊かな魅力ある農村を実現するためにも組合員の連携による「地域力」を更に強めるとともに、グローバル経済の進展や様々な規制緩和圧力等がＪＡや組合員に押し寄せられ、更に組合員の多様な価値観やニーズを包含した中でもその結集軸となることが出来るＪＡを目指して組合員各位のご意見を頂きながら時代の変化を見過ごすことの無いように事業展開に努めますので本年も変わらぬご指導を賜りますようお願い申し上げます。

今年の五月より新たな元号となり、十月からは消費税増税など変わりゆく時代変化に適切に対応しながら組合員目線をモットーに農協外郭団体や農協をはじめとするＪＡグループ北海道、乳業メーカー等の「組織力や地域力」を再確認しながら地域振興を更に強めて参りますので組合員皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

最後なりますが、皆様にとって病気や事故・災害のないすこやかな年となりますようお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせて頂きます。

平成31年の年頭に当たり

JAけねべつ青年部　部長　唐崎幸道

新年明けましておめでとうございます。

組合員の皆様をはじめ、農協、各関係機関の皆様におかれましては、旧年中より青年部の活動に対し、多大なるご理解、ご協力を賜り、青年部を代表して心より感謝申し上げます。

また、青年部員の皆様におかれましても、日頃より積極的にかつ意欲的な青年部活動への参加、運営していただきました事、厚くお礼申し上げます。

平成30年度の活動として、私は役員と共に青年部の目指すものを議論し共有し合いました。それにより、部員一同が一丸となり積極的な事業を展開し、地域農業の活性化を図った青年部活動をすることができました。これも、役員、そして部員皆様に支えられたおかげだと感謝しております。

さて、平成30年度の青年部活動は、酪農のPRとして、ロールパックメッセージの作成や「牛」文字の草刈りを行い、地域内外に向けてPR活動を行いました。次に、職員との親交を深めるために、若手職員との職員懇談会を開催し、多くの部員が参加のもと賑やかに交流する事ができました。他に、環境保全の活動として、青年部員、JA職員、JF野付の職員や青年部員、別海町森林組合とともに植樹活動を実施し、交流を深めました。

更に新しく食育部会を発足し、地域への食育活動として、計根別学園の学生達に酪農業を知ってもらうため、酪農出前講座やチーズ製造の企画を行い、たいへん好評でした。

広報部会では、広報誌を通して活動を行った参加部員のインタビューや青年部員を身近に感じてもらうための活動写真掲載などを投稿し、多くの方に青年部の活動を発信してくれています。

お歳暮部会では、一大事業であります乳製品お歳暮事業が、部員全員と協力し、丁寧かつ迅速な発送作業を行い、無事終える事ができました。部会長や部員が役割に応じて計画的に行動しているので安心しております。また、地域特産品を知ってもらうためのAFクラブのセットを増量し、ご好評につき完売しました。

全道JA青年部大会では、須藤宗裕君が「全道JA青年の主張大会」にて出場し優秀賞を獲得しました。須藤君が様々な縁を大切にした中で自身が目指す酪農業について熱い思いで発表した結果だと思います。

昨年は部員たちの協力のもと多くの活動を実施でき、今年もお互いに協力しながら活発な活動を展開していきたいと思います。

現在の酪農情勢は、生産資材の高止まりや地震などの自然災害による生産への打撃、日EU・EPEや日米TAGの交渉などにより日々絶え間なく変化しており、先を見通せず困難な状況であります。しかしながら、これからの時代を円滑に適応できるためにも、私たちは生産基盤を確立し、先人の軌跡を学び、部員との連携と結束を強化していきます。また、活動を通して自分たちの地域を振興し活性化させていくことに寄与していきたいと思います。

結びとなりますが、本年も青年部に対しましてご指導、ご鞭撻賜りますようお願い申し上げ、新年の挨拶と致します。

2018年を振り返って…

JAけねべつ女性部　部長　相澤舞子

新年おめでとうございます。

組合員の皆様には、お健やかに新春をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。

各関係各所の皆様には、旧年中より女性部の活動に対し、ご理解、ご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

昨年は全国的に災害に悩まされた1年でした。計根別農協管内でも6・7月の長雨による牧草収穫の遅れや、9月6日の胆振東部地震が発生し、全道での大規模停電による、酪農への影響がありました。特に『ブラックアウト』では、復旧までに2日近くかかり、多くの方が不安な時間を過ごしたのではないでしょうか。この体験を生かしたく、女性部では地震の後に部員の声を聴収し、今後の災害への備えを進めております。

さて、今年度、女性部では趣味の部会が発足し、5部会が4月より活動しています。『おかず部会』『手芸部会』『旅行部会』『ミニバレー部会』『加工部会』と、それぞれ協力しながら、女性部を盛り上げようと頑張ってくれています。

全体活動では、5月に講師をお招きし、花の寄せ植え教室を開催しました。各自好みの鉢に、たくさんの草花から組み合わせを考え、素敵な寄せ植えを作りました。7月には全体交流のお食事会を、中標津の『そら』で行いました。7月のお中元事業では、女性部のオリジナルセットが3日で完売しました。10月の研修旅行は知床・網走方面に1泊2日で行き、常呂町ではカーリング体験をしたのですが、氷上に立つのも難しく、1時間ではストーンを投げるまでしか出来ませんでしたが、貴重な体験になりました。12月のレディースフェスタでは、昨年に引き続きレシピコンテストを、ホットケーキミックスを使った料理をテーマに開催しました。アイデア光る美味しい料理を囲み、参加者全員でゲームをして盛り上がりました。

三層活動では、フレッシュミズのパークゴルフ&バーベキュー親睦会（6月）、青葉会の昼食交流会（5月）、スクラッチアート（11月）、緑会のチーズ研修・ソーセージ研修（10月・11月）を行いました。

また、計根別農協女性部にとって、とても嬉しい出来事もありましたので報告させて頂きます。先月発行されました『家の光1月号』で、女性部のお中元事業が、漫画で掲載されました。これも発送作業に協力していただく部員の皆様、毎年注文していただく組合員の皆様のお陰と、心より感謝申し上げます。お中元事業が長く続けていけるよう、女性部一丸となり、より良い詰め合わせを届けていきたいと思いますので、今後もよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、平成最後のお正月、そして新元号となる2019年が、皆様にとって良い年でありますようにお祈り申し上げ、新年の挨拶とさせていただきます。

年頭のごあいさつ

根室農業改良普及センター北根室支所　支所長　吉田　忠

新年明けましておめでとうございます。組合員の皆様におかれましては希望に満ちた新春を迎えられたことを心よりお慶び申し上げます。農業改良普及センターにおいても日頃より皆様のご理解とご協力を頂き、今年も無事に新たな年を迎えることができました。平成30年を振り返ると不安定な気象経過と9月に発生した北海道胆振東部地震、これに伴う大規模停電による生乳廃棄、乳房炎被害が上げられます。このような状況の中、ご家族、地域の方々のご尽力のもと無事に生産が回復し、新年を迎えたられたことに敬意を表します。

さて、平成30年の気象経過、農業生産の状況を振り返りますと雪解けは早まり、農耕開始の5月は好天に恵まれ作業は順調に進みましたが、6月から7月上旬にかけての低温、長雨、日照不足により牧草の生育は遅れ、収穫作業にも遅れが生じる状況となりました。8月以降も不安定な気象経過となりましたが、心配されていたサイレージ用とうもろこし生育も幾分取り戻しましたが、総じて各作物の生育には心労を費やす年となりました。

作物別の収量と品質をみますと牧草では1番草の収量は平年並みでしたが、収穫時期が大幅に遅れたことで栄養価は低く、生乳生産や繁殖への影響を懸念するところです。2番草の収量と品質は平年並みで、適期収穫に向けご家族の皆様がご尽力頂けた成果が反映したことでしょう。サイレージ用とうもろこしについては不安定な気象経過から収量、栄養価とも平年を下回る結果となりました。

生乳生産をみますと平成29年産粗飼料品質が安定した物であったことと、気温の高い日が続かなかったため大きく落ち込むこと無く、栄養価が不安定な平成30年産粗飼料給与が始まってからも皆さんの知恵により安定した生産となり、日頃からの苦労が評価されるところです。

個体販売では廃用牛、初生雄子牛、交雑種とも稀に無い高値で推移してまいりました。しかし、乳牛導入による経営規模拡大を目指す方や個体の入れ換えを進めたい方においては高値で苦慮したことと思います。また、黒毛和種のホルスタインへの交配は衰えず、後継牛確保対策として雌雄判別精液の活用がみられますが、想定外は付きもので、このことを含め考えると生乳生産への影響が懸念するところです。

社会情勢をみますと日欧経済連携協定（EPA）及び環太平洋連携協定（TPP11）の発効、さらに日米物品貿易協定（TAG）の交渉開始合意など農業を取り巻く環境は経験の無い変化に曝され、心中穏やかでないことをご察し致します。

当地域では生産振興策としてTMRセンターの普及をすすめ、支援組織が生乳生産の維持・向上に大きく貢献してきたことは云うまでもありません。受益する側の皆様においても意識が高く、一戸あたり生乳出荷量は約1％増えております。このことは、生産者一人一人の努力の賜物であることは間違いありません。また、酪農を取り巻く国内経済環境も良く、安心して年を越されたことと存じます。しかし、この環境が未来永劫に約束されたものでは無いことはご承知のとおりだと思います。この良い環境下のうちに生産技術の見直しと強化を個人に留まらず地域を含め考える機会でしょう。酪農では一時的な儲けを優先した異品種交配や個体販売を行うのでは無く、将来を画いた計画交配や改良が望まれるとともに、草地の計画更新による高栄養価粗飼料の確保と飼養管理技術の更なる向上、投資に向けた考え方の再構築が必要となるでしょう。また、将来を担う人材の確保と育成、更に異業種との連携が益々重要となるでしょう。目標を達成するには障害は付きまとい、何を具体化すると解決するかを洗い出し、前進することが大切です。計根別農業協同組合で掲げた「自助・協同の精神のもとに心身ともに豊かでゆとりある酪農コミュニティを創り上げる」のテーマの下、私たち普及センターも微力ながら皆様のお役に立ちたいと考えております。

結びになりますが皆様にとって良い一年となりますようお祈り申し上げると共に、本年が天候に恵まれ稔り多い一年となりますよう心からご祈念申し上げ新年の挨拶とさせていただきます。

女性部だより

平成30年度 レディースフェスタ

12月13日、女性部の一大イベント「レディースフェスタ」が中標津町交流センター（計根別）で行われました。

今年は「ホットケーキミックスを使ったレシピ」をテーマにコンテストを実施し、部員が腕によりをかけた料理を実食し、審査を行いました。

満腹になり、会話も楽しんだ後は50円玉２枚を使った「一発千金」、５球打って得点を競う「スロットボール」、空き箱を倒して豪華景品を獲得する「的あてゲーム」を行い、とても楽しい時間を過ごすことができました。

その他に各支部や個人で作った作品の展示が行われ、参加者の皆さんがじっくりと見入っていました。また来年も実施予定ですので、女性の皆さまのご参加をお待ちしております！

《事務局　中野係》

レディースフェスタ2018レシピコンテスト
最優秀賞
『ホットケーキミックスでサンドロール』
出品者：おかずクラブ

＜材料＞（直径20㎝　１個分）
- ○ホットケーキミックス‥‥200ｇ
- ○卵M‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥３個
- ○水または牛乳‥‥‥‥‥‥‥50㎖
- ○豆腐（絹でも木綿でも）‥‥‥１丁

＜作り方＞
①豆腐をペースト状に混ぜ、卵、水、ホットケーキミックスを混ぜ合わせる。
②ホットプレートに生地を薄く伸ばして焼きます（クレープ生地くらい）。
③好みの具材を包んで召し上がってください。
※ツナマヨ、卵、スモークサーモン等いろんな具で挑戦してみてください！

須藤君、優秀賞おめでとう！

久保くん、大会テーマおよびスローガン考案者とし表彰

第67回 全道JA青年部大会開催！

12月６日から７日の２日間、札幌市パークホテル札幌で開催され、当青年部より６名の部員が参加致しました。

大会では、ＪＡ青年の主張大会、青年部活動実績発表大会、分科会、アームレスリング大会、純農Boyオーディション、講演会、農村ホームステイ事例発表と盛りだくさんの内容が組まれておりました。

青年の主張発表大会では、須藤宗裕君が根室管内の代表として参加し、優秀賞を受賞致しました。須藤君は、自身の酪農と多くの繋がりについてどのように考え、将来を紡いでいくかを熱い思いで発表していただきました。

講演会では、小谷　あゆみ氏（フリーアナウンサー）や森　結有花氏（HBCアナウンサー）をお迎えし、農政や若手農業者への思いなどさまざまな事を話してくれました。

２日間の期間で、多くの盟友が活動や想いについて意見を交わし、良い刺激を受けられたと思います。この刺激に触発されながら当青年部がより積極的に活動していき、地域農業の振興を図り、先駆者として更なる活躍をして頂きたいと思います。　《事務局　小林係長》

平成30年もお疲れ様でした！平成31年もみんなで頑張りましょう！

12月14日に白木屋 中標津店にて忘年会を開催致しました。

今年の農業情勢は、地震によるブラックアウト、新たな加工原料乳生産者補給金制度の開始などで騒がれましたが、良い年だったと思います。青年部員たちは平成31年に向けて更なる飛躍の年になることを話し合い、おおいに盛り上がりました。企画を通じて、みんなが繋がりを大切にし、来年も地域を活性化する原動力として活躍することを期待しています。

《事務局　小林係長》

今年もお疲れ様でした！

ちょリスふれあいキャラバン

12月18日、『ちょリスふれあいキャラバン』が計根別幼稚園で行われ、クリスマスの衣装を纏ったちょリスが遊びにきました。３歳から６歳までの園児と一緒にしりとりゲームとダンスをして楽しみました。

計根別農協からは、金融共済課の喜来係（計根別幼稚園卒）が園児の皆さんに挨拶をしました。最後に、ちょリスから園児のみんなにプレゼントが贈られ、集合写真を撮って終了しました。ちょリスと一緒に遊んで踊って、今年のクリスマスは少し特別なものになったと思います。

園児の前で挨拶をする喜来係

ちょリスと一緒に「あわてんぼうのサンタクロース」を踊りました

みんなでしりとりゲーム

楽しく遊んでくれたお礼に、ちょリスサンタから、プレゼントが贈られました

今月の青年部

このコーナーは、地域の皆様に青年部を身近に感じて頂けるように、部員の日常の出来事を紹介しています

◀みんなで、お歳暮作業中（お歳暮事業）

お歳暮の発送確認（お歳暮事業）▶

▲大会の会場にて、盟友集合中（全道ＪＡ青年部大会）

第52回 ヨーロッパ酪農視察研修

視察先　オランダ　①　②　【農場視察　２軒】
ドイツ　③　④　【農場視察　２軒】
スイス　⑤　【工房視察　１軒】

参加人数　15名
（事務局２名・添乗員１名　計３名含む）

❶【Dairy Campus】デイリー キャンパス

オランダ国内の酪農についての研究を行う機関として、６棟の施設設備に約５５０頭の乳牛を平均15頭／グループ分けした群管理で飼養しています。様々な企業・教育機関・酪農家と提携し、酪農界の発展の為に尽力している施設だそうです。その研究内容は国内外に発信すべく常に数百種類を掲げ、テーマ毎に経費面について資金援助を各方面から募るという方式をとっている為、事業参加者も自身に必要な分野を選択し易いという利点があり、大変面白い手法だなと思いました。また、労働実習機関の面も持っている為、最新の技術・知識を共有した人材を国内に輩出する実績はとても素晴らしいことだと思いました。

❷【De Kandelaar】デ・カンデラー農場

元国営の農業関連実験農場を酪農場に改築し創業。過去にも国策による移転を余儀なくされ、２０００年より現在の形態をとる家族経営農場でした。敷地内及び施設は実験農場の改修ということもあり畜主の説明にもありましたが一般的な農場よりも施設規模や敷地面積において余裕があり、余剰施設を改修した宿泊業なども併設した多角経営に着手しているそうです。デラバル社のＶＭＳ（voluntary milking System）が稼働して以降は、近隣農家への労働力提供も可能になり、近年では同社のハードナビゲーター（ＨＮ）システムも導入し、省力化しつつ個体管理についても前年を上回る成績を挙げることができたと言うことでした。コスト面で懸念されがちなＨＮシステムですが利用者の声を聴くと満足していると言った情報も多いが、自分の周りでは普及の兆しはないのが現状です。

❸【Agrargesellschaft Ruppendorf AG】アグラゲゼルシャフト ルッペンドルフ農場

ドイツ国内大規模法人経営の乳牛部門トップクラスに上る当農場では自動搾乳ロボットでレリー社のAstronaut4が24台稼働する圧巻の光景を見学できました。既存の施設内部は大変整備されており、搾乳頭数１１５１頭を管理するシステムも決して最新のものばかりでは無くても乳牛のボディーコンディションもすばらしい状態であったと思います。

授精時期の育成牛を扱う施設は別にあるそうですが同敷地内には哺乳育成用カウハッチが130個一列に並ぶ（全部で150個あるそうですが）これまた驚嘆の光景を目の当たりにし、参加者一同圧倒され続けておりました。

❹【Laproma Erzeuger】ラプロマ エアツォイガー農場

当農場は旧東ドイツ体制時より農業を展開し、1989年より酪農業を開始。後に法人化し、2013年にはデラバル社製AMR搾乳システムを搭載したロータリー式パーラーを基本設計にした第2牧場を新設、今回はその施設を見学できました。ドイツ国内でも初の設備投資だったそうで労働力の省力化や規模拡大の模範農場として各国からの視察研修を受け入れているそうです。自分も初見でしたがAMRシステムでは乳頭洗浄、ティートカップ装着、ディッピング洗浄の作業を固定式のロボットアーム各2台により行い、80～85頭／時間の搾乳をほぼ1人の担当者が管理していました。搾乳異常・失敗等の場合も別ゲートへの誘導・待機場への再入場なども全て自動管理されており、担当者は牛の追込み・除糞・ユニット装着状態の確認作業のみで時間的にも体力的にも余裕があるようにみえました。経営者の方の話でも人材確保に多大に貢献しているということでした。

❺【Emmental Schaukaeserei AG】エメンタール シャウケーゼライ工房

スイスチーズの代表格『エメンタールチーズ』の製造・販売・見学を行なえる施設を見学。丘陵地帯中腹に構えられた敷地内には、最新設備とは別に伝統技法を継承すべく、約270年前に建築された工房が移設されており、チーズ職人達の実演を間近でみることができました。同施設地下には貯蔵庫も完備されており、最大級サイズで直系約1メートル、重量100kg近くにもなるエメンタールチーズの実物を拝見、因みに【チーズアイ】と呼ばれる内部の穴は長期間に渡る熟成過程で発生する炭酸ガスの影響だそうですが、原料乳の品質・生産牛の体調管理の良し悪しで個々の出来栄えが全く異なるそうです。また、販売所からはガラス越しに製造過程が見学でき、近隣の生産者から集められた生乳にて自動化が進められた施設内にもかかわらず、職人さん達が巨大チーズを成型する様をみて、大変な技術だと改めて思い知らされました。

以上、3カ国での酪農畜産研修においてはいずれも参加者からの活発な質問もあり、大変有意義な視察であったと考えます。限られたスケジュールではありましたが訪問した各農場・施設においては非常に丁寧な対応をして頂き、この場を借りて改めて感謝を申し上げます。

また、今回訪問した各都市及び地域では重要な歴史的遺産を有し、それらを主体に国内での建築・製造業や観光業といった経済効果に寄与するそれら資源への国民の理解と愛情並びに意識の高さも実感することができました。

最後に、天候にも恵まれ、当初の研修目的を滞り無く達成できましたのも、ひとえに参加者全員並びに各関係者のご理解ご協力の賜と心より感謝申し上げます。

《酪農課　星野係長》

組合員さんと職員のご家族の年男・年女の方に今年の抱負などを語っていただきました。

東部地区

（西計根別）
本田 優里さん（敏明さん）
勉強と部活を頑張る

（東計根別）
氏家　康夫さん
健康第一

（東計根別）
氏家　雅代さん
貯金と節約

（中計根別）
喜来　清さん
なるべく健康で

（中計根別）
喜来　明美さん
家族みんな健康で

（中計根別）
飯島　楓さん（裕治さん）
勉強を頑張る

（新栄）
波田野一子さん
健康が一番だね

（東西竹）
野村　真一さん
健康第一

（東西竹）
野村　翔子さん
夫と牛に優しくする

（中計根別）
葛西 大翔さん（裕之さん）
キャプテンとして
みんなを引っ張る

（東西竹）
須崎みづえさん
娘に負けない!!

（東西竹）
須崎ななみさん
バレーで
一番になります!!

（若竹）
鈴木　達也さん
勉強で
今より成績を出す

（若竹）
鈴木ひとみさん
健康一番

職　員

（営農部 営農振興課）
片岡　美幸さん
今年10kg痩せます！

（金融共済部 金融共済課）
深瀬　望さん
健康第一

（販売部 畜産販売課）
大槻　勝一さん

（総務部 総務電算課）
深見　亮さん
来年こそ、110切るぞ！

（販売部　部長）
須崎　徹さん

西部地区

（南養老牛）
株田　敏子さん
１年頑張る！

（南養老牛）
田中　利夫さん
もうひと踏ん張り

（南養老牛）
小川　雅史さん
計根別管内で
乳量トップを目指す！

（南養老牛）
石邑　房枝さん
家族が健康で
過ごせますように

（大麻）
斉藤　　明さん
来年は
頑張ってサケを釣る

（上標津）
本村　　敏さん
健康第一

（旭新養老牛）
太田ひとみさん
早く春が来ますように

（旭新養老牛）
株田　勝則さん
健康で
過ごせますように

（西養老牛）
小林　静江さん
健康第一

南部地区

（共進）
小西亜莉沙さん（恵美さん）
来年は部活を頑張る

（共進）
加藤蒼一朗さん（司さん）
勉強を頑張る

（酪進）
白川 愛叶さん（友美さん）
国語の漢字を頑張る

（酪進）
宍戸 桃花さん（一哉さん）
苦手な算数を頑張る

（中本別）
中垣　隆二さん
健康第一

（中本別）
熊坂　修一さん
一年健康で

（中本別）
松本　朋子さん
家族が健康で

（共進）
高橋優里愛さん（顕吾さん）
スケートで
１番になる！

（共進）
河本琉之介さん（慎太郎さん）
水泳を頑張りたい

営農振興課より

冬期間の子牛管理のポイント

寒さに晒された子牛は寒さに耐えるために多くのエネルギーを必要とします。エネルギーが不足した牛は発育が停滞したり、風邪をひきやすくなったりします。寒冷ストレスを緩和する対策、給与するエネルギーを増やす対策が必要です。

■寒さを防ぐ

赤外線ヒーターを使う、カーフジャケット・ネックウォーマーを使うなどの対策で子牛を寒さから守りましょう。冷気が来やすい壁際や天井に断熱資材塗布や板貼りなどをして冷気を防ぐのも良いと思います。

■ミルクを増やす

哺乳量というと、「○○リットル飲ませている」という会話になりがちですが、最近では「何グラム飲ませていますか？」という言い方をします。これまでは１日500ｇ（１回あたり250ｇ）、という量がよく聞く話だったかと思いますが、最近は１日800ｇと言われるようになりました。寒くなる冬はミルクを増量しましょう。（ご相談は営農部まで）

注　意

※ミルクの粉の量はミルクの種類によって異なります。袋に書いてある内容を確認してください。

※ミルクはある程度の範囲であれば「濃く」することができますが、その範囲を超えると下痢の原因となります。濃度で調整できない部分は「哺乳量を増やす（例：２ℓ→３ℓ）」ことで対応します。

注目!!

■カーフウォーマーを洗いましょう

カーフウォーマーが活躍する季節になりました。昨年のまま使っていたりしませんか？汚れが溜まっていたりしませんか？生まれて免疫のついていない子牛が入るものです。必ずきれいにしましょう。

■初乳もしっかりと

気温の変化もあり、換気もしづらく、子牛が体調を崩しやすい冬場はいつも以上に初乳給与を意識する必要があるかもしれません。糖度計で確認し、薄い時は初乳製剤を足しましょう。

営農改善資料発行！③

この資料は、将来構想の考え方、労働生産性を考慮した農場全体のシステムのあり方、投資するにあたって事前に準備しておくことについて掲載しています。

9月から計4回にわたり概要と活用事例の紹介をしています。

第Ⅲ章　事前に準備しておくこと

第Ⅰ章では、将来の農場の規模や投資計画について、第Ⅱ章では必要な施設について、それぞれ紹介をしました。この章では、それらを踏まえた上での実務的な準備作業について紹介をしています。

1　計画を立てる

まずは、投資計画の作成と予定地の確保が必要となります。

投資計画の作成には、①各施設の図面を引く、②各施設の位置や向き（レイアウト）を決める、③各施設の見積を取る、④必要な資金計画を立てる、⑤増頭計画を立てる、という作業があります。これらは互いに影響し合うため、同時進行で何度も行うことになります（図1）。

予定地の確保には、保有している土地を利用する場合と土地購入の場合とで、それぞれ手続きや作業が必要となります。

本資料では、具体例を紹介しています。自身の計画と照らし合わせてシミュレーションをしてみましょう。

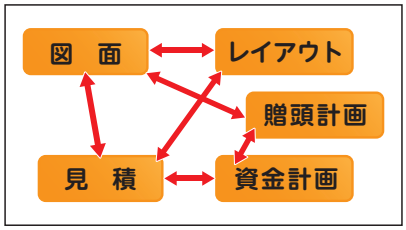


図1　投資計画作成のイメージ

2　手続きのスケジュール

施設建築に関する手続きには、①資金調達、②補助事業利用、③農地転用、④法人化などがあります。農場の条件により必要な手続きは異なりますが、スケジュールに余裕を持たせて計画的に進める必要があります（表1）。

補助事業の利用、資金調達および農地利用の計画を十分に検討し、できるだけ早い段階で各窓口に相談しましょう。

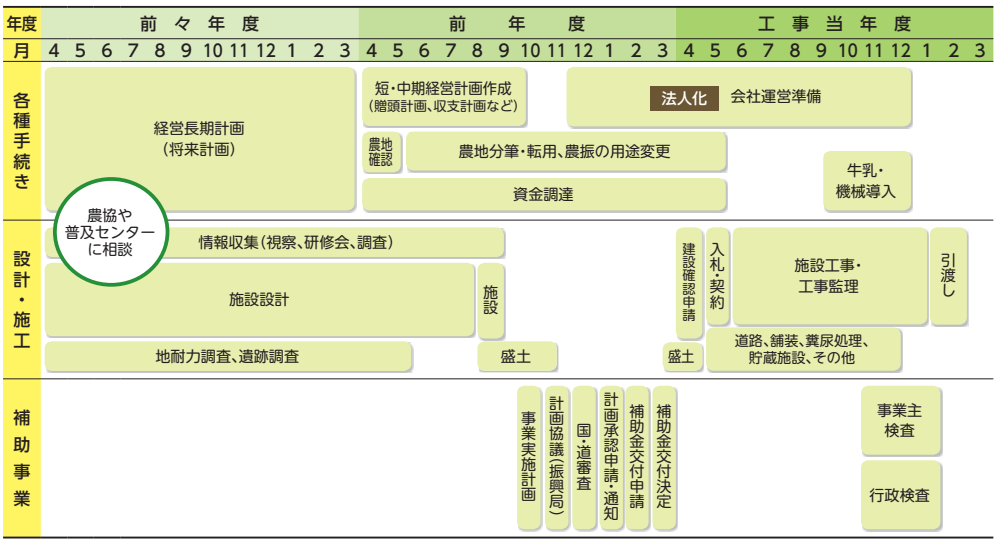
3　雇用にあたって

経営規模の拡大や事業の多角化、家族の状況などによって、従業員の雇用を行うことも選択肢として考えて行かなくてはなりません。

雇用を考える上では、従業員数、雇用の開始時期、求人方法、就業前研修、雇用形態や賃金形態、保険の加入、従業員の住居、労働時間や福利厚生など、決めていく事項は多々あります。

本資料では、従業員の方々への聞き取り調査や各農場のホームページ、求人サイトの事例から、雇用の確保についてポイントを紹介しています。

表1　補助事業を利用した場合の牛舎建築スケジュール（例）



4　直前の準備

稼動に向けて、直前にやっておくことをチェックリスト形式で紹介しています。

牛にとって、環境の変化は一時的に大きなストレスになりますが、施設が新しくなることは作業手順を一新する絶好のチャンスです。今一度、施設を見直し、実際に牛を入れた状況をイメージしながら準備を進めていきましょう。

増頭や雇用の確保など、投資に向けて、2～3年前からの計画が必要です。第Ⅰ章の将来目標や第Ⅱ章の農場システム・レイアウトの検討まで戻って何度も検討し、準備を進めていきましょう。ときには、「今回はやめておく」という、中止・延期の決断をすることも大事な判断です。

つづく。

JAグループ通信

JAグループの連合会・中央会の活動内容を紹介します。

JA北海道大会決議事項の実践やその時々のトピックスなど、組合員の皆様に定期的にお伝えします。

各団体の詳しい取り組み内容はWEBサイトをご覧ください。

JA北海道中央会

次世代の大規模農業経営者の育成を目的とした「北海道アグリフードプロジェクト・アカデミー（農業経営塾）」の第3回講座が、受講生10名の参加のもと、11月29日・30日の両日、札幌市内で開講されました。

今回は「人づくり・組織づくり」をテーマに組織開発、労務管理の基礎知識を専門家から学ぶとともに先進事例の紹介もあり、研修のまとめとして、受講生各自が「夢の農業経営」を実現するための「働き方改革実行宣言」を行いました。

JA北海道信連

11月に農業経営者支援の一環として、今年で8回目となる「農業経営フォーラム」を札幌で開催しました。当日は、㈲トップリバーの嶋﨑代表取締役に「トップリバー流の人材育成」を、志ネットワークの上甲代表に「いま経営者に求められるもの～松下幸之助の人づくり～」をテーマに講演頂きました。参加者からは、「人材育成の重要性を理解できた」、「人としてあるべき姿を教わった」など好評を頂きました。

ホクレン

全道のホクレンSSで展開した「2018ラブ&ハートチャリティキャンペーン」に寄せられた募金と、売り上げの一部を合算した総額300万円を、北海道社会福祉協議会へ寄託しました。当キャンペーンは、ホクレンの社会貢献活動「HOKUREN SEEDS PROJECT」の一環として実施しており、道内の児童保育施設約810箇所に、絵本などの購入費用として使用いただく事となっております。

JA共済連北海道

12月24日(月)から1月20日(日)まで、さっぽろ地下歩行空間に、「アンパンマン×こども共済」の巨大壁面広告（全長14・5m）を掲出します（写真はイメージです）。一般のママ達が選ぶ「マザーズセレクション大賞」を受賞した「こども共済」を年末・年始にかけ全道から札幌へ訪れる方々へPRいたします。札幌にお越しの際は、ぜひ地下歩行空間でご覧下さい！

JA北海道厚生連

組合員ならびに地域住民の皆様の生命と健康を守るため、本会事業の積極的な啓蒙推進を図ることを目的として、広報誌「すまいる」を発行しております。

年3回発行しており、様々な医療・健康情報を発信しております。

ホームページにもバックナンバーを掲載しておりますので、是非ご一読ください。

今月のシャッターチャンス

冬のモアン山

今月の義を見てせざるは勇無きなり

新年あけましておめでとうございます。
昨年は多くの自然災害があった年となりました。平成30年を表す漢字も『災』となり、その言葉を表すかのように、長雨、猛暑、台風、地震、停電…と１年にこんな重なるものか!?と驚きを隠せません。
さて、今年、平成31年…そして、元号が変わっての新年はどのような年になるのか今から希望そして不安に思っている方もいるかもしれません。
どのような年になろうとも、年が明けたばかりの今は輝く未来を期待したいものです。

『竹に節がなければズンベラボーで、とりとめがなくて、風雪に耐えうるあの強さも生まれてこないだろう。竹にはやはりフシがいるのである。同様に、流れる歳月にもやはりフシがいる。ともすれば、とりとめもなく過ぎていきがちな日々である。せめて年に一回はフシを作って、身辺を整理し、長い人生に耐える力を養いたい。そういう意味では、お正月は意義深くて、おめでたくて、心もあらたまる。』
これは、現パナソニックの創設者であります松下幸之助氏の言葉です。松下氏は大正６年、手元資金わずか95円で独立。厳しい試練をのりこえ、「松下電気器具製作所」を創業しました。その会社がその後の松下電器、現在のパナソニックです。

昨年が皆さんにとって良い年だったか、悪い年だったかは、人それぞれかと思います。どのような方もこのお正月をフシとし、ゆっくり静養、次への活力を蓄え、新しい年を活動していきたいものです。
今年は皆様全てが良い年だったと暮れに笑っていられることをお祈りしております。

明けまして
おめでとうございます。
2019年も
宜しくお願いします。

生乳販売情報

平成30年度11月末　管内農協生乳受託実績表

(kg)

農協名		月計 乳量	月計 前年比	累計 乳量	累計 前年比	搾乳戸数
ＪＡ標津町		8,284,911	101.0	68,608,445	99.1	131
ＪＡ中標津町		10,382,336	103.5	85,880,582	101.9	168
ＪＡけねべつ		**6,757,419**	**98.7**	**57,258,484**	**97.3**	**136**
ＪＡ中春別		9,894,980	101.2	81,482,490	100.9	167
道東あさひ	西春別支所	7,369,753	100.6	60,984,075	100.4	135
	上春別支所	5,359,346	106.1	43,777,432	105.3	71
	別海本所	11,714,667	97.4	98,875,158	97	231
	根室支所	3,870,377	101.1	33,086,572	101.5	81
	小計	28,314,143	100.3	236,723,237	100.0	518
合計		63,633,789	100.8	529,953,238	100.0	1,120

市場情報

ホクレン根室家畜市場 一般市場 12月19日開催分

税込み

畜種	出場	成立	最高	最低	平均	先月との差
乳牛・ホル　育成	61	58	605,880	54,000	393,660	28,363
乳牛・ホル　初任	24	22	936,360	329,400	657,376	-23,481
乳牛・ホル　経産	20	20	547,560	141,480	261,522	-61,078
乳牛・ホル・無経産						
肉素・黒毛和種・メス						
肉素・黒毛和種・オス						
肉素・黒毛和種・去						
肉素・乳用交雑・メス	8	8	273,240	11,880	137,835	
肉素・乳用交雑・オス						
肉素・ホル中犢・メス						
肉素・ホル中犢・オス	1	1	90,720	90,720		
肉素・ホル中犢・去						
肉素・ホル・メス	20	20	292,680	45,360	203,796	-47,227
肉素・その他・メス	1	1	191,160	191,160		
肉素・その他・去	1	0				
初生・黒毛和種・メス	19	18	595,080	227,880	453,720	34,112
初生・黒毛和種・オス	41	36	677,160	118,800	523,260	-3,521
初生・乳用交雑・メス	117	117	279,720	39,960	187,302	18,919
初生・乳用交雑・オス	120	120	383,400	88,560	279,792	3,545
初生・ホル・オス	130	128	209,520	3,240	102,195	-3,416
初生・ホル乳用・メス	30	30	300,240	62,640	180,180	7,696
初生・異性双児・メス	9	9	106,920	6,480	59,280	24,045
初生・その他・メス						
初生・その他・オス	2	2	37,800	6,480	22,140	-8,640
廃用黒毛和種	6	6	356,400	206,280	279,000	-10,980
廃用・ホル	209	208	303,480	23,760	154,424	-17,591
廃用・その他	3	3	150,120	60,480	106,200	

ホクレン根室家畜市場 乳牛市場（セール）12月10日開催分

税込み

畜種	出場	成立	最高	最低	平均	先月との差
乳牛・ホル　初妊	460	447	1,143,720	302,400	819,107	19,444
乳牛・ホル初妊ET	42	40	1,354,320	706,320	1,060,628	-40,571
乳牛・ホ無　初妊	6	6	846,720	467,640	706,680	-54,450
乳牛・ホ無　初妊ET						
乳牛・ホル　経産牛	1	1	489,240	489,240		
その他の乳用種						
合計	509	494	1,354,320	302,400	887,323	36,603

計根別農協（ホクチクファーム）初生トク　*b単価　12月21日現在 2,200円/kg

ホクレン十勝地区家畜市場（音更町）肉牛（和牛）市場　12月13日開催分

税込み

畜種	出場	成立	最高	最低	平均	先月との差
肉牛・黒毛　メス	551	528	915,840	386,640	673,400	28,829
肉牛・黒毛　メスET	272	259	1,218,240	424,440	745,471	-13,936
肉牛・黒毛　メス計	823	787	1,218,240	386,640	694,259	15,713
肉牛・黒毛　オス						
肉牛・黒毛　去勢	666	637	1,119,960	93,960	745,819	-4,763
肉牛・黒毛　去勢ET	364	348	1,220,400	467,640	785,291	16,733
肉牛・黒毛　去勢計	1030	985	1,220,400	93,960	824,140	22,891
肉素・肉専用種　去勢						
繁殖・黒毛	62	57	1,410,480	326,160	678,392	-47,243
廃用・黒毛	100	100	622,080	143,640	330,318	3,510

計根別農協乳牛頭数・肉用牛頭数

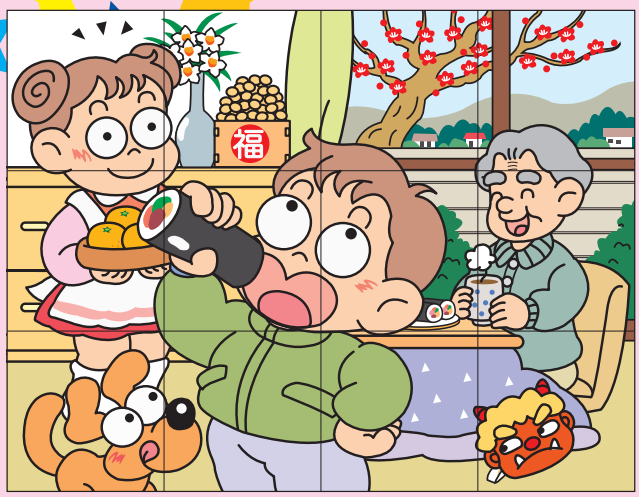
12月1日現在

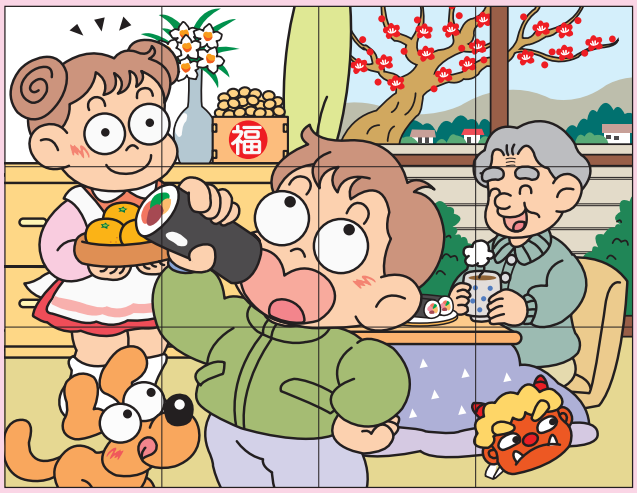
乳用種（区分）	頭数	先月との差
未経産12ヶ月未満	3,440	-101
未経産12ヶ月以上	4,178	46
その他の未経産	60	1
計	7,678	-54
経産牛（ホル）	9,705	-14
その他の経産牛	50	0
計	9,755	-14
合計	17,433	-68

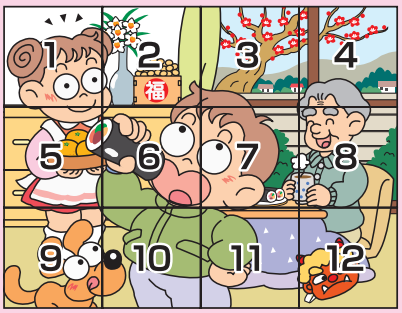
肉用種（区分）	頭数	先月との差
黒毛和種　メス	543	5
黒毛和種　オス	75	-1
計	618	4
F1（交雑種）メス		
F1（交雑種）オス		
計		
合計	618	4
総合計	18,051	-64

まちがいさがし

右のイラストには左のイラストと違う部分が5ヵ所あります。間違っている部分を左下の枠内の数字で探しましょう。







●正解者５名の方にすてきなプレゼントをさしあげます。なお、正解者多数の場合は抽選とさせていただきます。

《応募方法》 左下の点線の部分を事務所入り口に設置している投書箱へ。または、営農企画係までFAX(78-2048)をお願いします。

《締め切り》 2019年１月20日まで
当選者の発表は「けねべつ」2019年２月号誌上

まちがいさがし12月号の答え

4	5	7	10	12

抽選の結果右記の方が当選いたしました。プレゼントを営農企画係でお受け取り下さい。

菅野　菜緒さん
小林　　孝さん
山下寿美恵さん
斉藤コユルさん
佐藤　広光さん

つぶやくべぇ～

■除雪シーズン

ついに除雪シーズン到来。一回でも少なく終わってほしいですね。ガンバロー

（ペンネーム　山親父さん）

■感謝

大編勉強になりました。皆様の仲間として感謝して居ます。　（ペンネーム　匿名さん）

■アイスバーン

道路がツルツルで危ないですね。みなさん安全運転お願いします。😊

（ペンネーム　チーム安全運転さん）

■真っ赤なお手手

わざわざ深雪を歩いて雪だらけ。でもお手手は真っ赤になってますが、そりは放しません。お外大好きの元気な将ちゃん。

（ペンネーム　なかよしさん）

■あけましておめでとうございます

皆様にとって、幸多き一年になりますよう心からお祈り申し上げます。　（ペンネーム　職員さん）

「つぶやくべぇ～」では皆さんのつぶやきやシャッターチャンスなどを募集しています！営農企画係までメールするか事務所玄関の投書箱への投稿お待ちしております！
einoukikaku@kenebetsu.ja-hokkaido.gr.jp

きりとり線

まちがいさがし　１月号の答え

住　所

氏　名

ＴＥＬ

「つぶやくべぇ～」へ投稿する

（ペンネーム　　）

きりとり線

この写真を見て一句！

先月のお題『初雪』でした。

初雪に　なぜか心が　騒ぎたち
（なかよしさんの作品）

曇天に　青女舞い出づ　枯野かな
（澄怜さんの作品）

雪の精　少し待ってた　君のこと
（ばあちさんの作品）

初雪に　轍をきざむ　牧草道
（松風さんの作品）

■例　文■

あと何度　家族で初日　見れるかな
（つぼみさんの作品）

今月のお題『元旦』です。皆様の作品お待ちしております。
（１月20日締切）営農部までＦＡＸまたはつぶやくべーで。
また、お題の写真も募集しております。
素敵な写真がありましたら、是非ご提供してください。

平成31年 1 2019 No.372
けねべつ JA広報

編集／計根別農業協同組合　営農部　営農支援課
発行日／平成31年１月１日